F-5

コピュラ文述部に置かれる最上級形容詞の部分的読みについて

松延比呂伎

hm.klavier.rhapsodie2187@gmail.com

最上級形容詞の意味論においては、absolute/comparative reading の区別をはじめとする読みの多様性が指摘されている。本発表では、これまでほとんど考慮されていなかった「部分的読み」について取り扱う。部分的読みとは、*The lake is deepest here.*といった、「述語（形容詞）の表す属性が主語の指示対象の時間的・空間的・特徴的な一部のみに妥当する読み」であり、当該読みを持つ最上級形容詞がコピュラ文述部に置かれると、それ以外の読みの場合とは異なる特徴的な振舞いを見せる。はじめにこの現象を英語・ドイツ語・フランス語・スウェーデン語・フィンランド語の各言語で観察し、その統語的・形態的特徴をまとめる。続いて、部分的読みが従来の概念(限定用法/叙述用法、partitive construction、definite/indefinite 等)に単純に当てはめることが困難であること、概念の拡張が必要であることを主張し、続いて部分的読みが空間的・時間的・特質的部分の３類型に細分化できることを述べる。最後に部分的読みに関する意味的な特徴を述べる。

キーワード：英語、印欧語、意味論、形容詞、最上級、部分的読み

１．形容詞の最上級に関する意味論

最上級形容詞に関しては、これが複数の読みを持ち、読みごとに異なる論理形式を持つことを Szabolcsi(1986)が指摘し、これを皮切りに、現在に至るまで主に形式意味論の分野において盛んに研究されている。最上級形容詞に関する先行研究は、読みの多様性及び当該多様性を裏付ける論理形式の解明に焦点が置かれている。例えば(1)は、absolute reading と comparative reading と呼ばれる二通りの読みを持つ。

(1) John climbed the highest mountain.

a. John は（世界で）最も高い山（＝エベレスト）に登った。 (absolute reading)

b. John は（他の人と比べて）最も高い山に登った。 (comparative reading)

(1)は、John に強勢を置けば (1b)の読みのみ容認されるが、そうでない場合は(1a)と(1b)の二つの読みが許容される。Szabolksi(1986)は *the -est* のスコープがこの曖昧性の原因とし、スコープが NP(the highest mountain)の内部であれば(1a)、外側であれば(1b)の読みを与えるとしている。これをうけて Heim(1999)が、最上級形態素-est につき次のような表式を行っている。

(2) $-est(\mathrm{x}, \mathrm{R}, \mathbf{C}) = \exists \mathrm{d}(\mathrm{R}(\mathrm{x}, \mathrm{d}) \vee \forall \mathrm{y}(\mathrm{y} \neq \mathrm{x} \vee \mathrm{y} \in \mathbf{C} \rightarrow \neg \mathrm{R}(\mathrm{y}, \mathrm{d})))$

ただし x, y は個体、R(x, d)は形容詞で「x は尺度 d の属性 R を持つ」といった意味を持つ(例えば、x = *John*、d = 170 cm、R = *tall* 等) 。**C** は比較対象となる個体を要素として持つ集合であり、例えば(1a)であれば **C** は世界にあるすべての山の集合であり、(1b)では、**C** は *John* と何らかの関係を持つ人たちが登った山の集合となる。Heim(1999)は、*the -est* でなく、論理形式(LF)における[**C** -est]の移動＝数量詞上昇(QR)により読みの曖昧性の違い＝**C** の要素の違いを説明している。

(3) John climbed the highest mountain.

a. LF: [John climbed [the [[**C** -est] [high mountain]]]]. (absolute reading: **C** = { x | x is a salient mountain. })

b. LF: [John [**C** -est [climbed ~~the~~ high mountain]]]].

(comparative reading: **C** = { x | a salient individual climbed a mountain which is x. })

なお、(3b)における *the* への打消線は、名詞句が定でなく実質的に不定であることを表している。詳しくは３．３節にて述べる。

このように、個体の属性を述べるに当たり、どのような個体の集合を比較対象として与えるか、つまり、比較対象の妥当する述語のうちどれを[**C** -est]のスコープ内に収めるかで、読みの違いが生じていることが分かる。ところが、本発表の対象となる、最上級形容詞を述部として持つコピュラ文は、次の(4)が示す通り、「主語がそのある部分において、ある属性が最も卓越している」という意味を表す。その際、定冠詞 *the* の出現は任意である。本発表では、このような読みを「部分的読み」と呼ぶこととする。

(4) The lake is (the) deepest at this point.

「その池はこの地点が一番深い」

部分的読みの重要な特徴として、単一の個体の内部で比較が行われていることが挙げられる。(1a)と(1b)では、いずれも *John* の登った山はそれ以外の山と比較されているが、(4)では「その池」の様々な部分と、同じく「その池」の「この地点」とで比較がなされている。このような読みに関しては、管見の限り本格的な研究が存在しない（ただし、最上級形容詞のアノテーションをする際の一分類として部分的読みの存在を認める研究がある。Scheible 2008 等）。本発表では、部分的読みを持つ最上級形容詞の統語的・形態的特徴の記述、他の言語現象等との比較、意味の細分化を試みる。

２．最上級形容詞の統語的・形態的特徴

部分的読みを持つ最上級形容詞は、英語に限らず様々な言語で見られ、しかも、このような最上級形容詞がコピュラ文の述部に出現する際、典型的な最上級構文と相応の差異を伴う。

(5) 英語：定冠詞 *the* の出現の義務性

a. The lake is *(the) deepest in the country. 「その池はこの国で一番深い」

b. The lake is (the) deepest at this point. (=(4)) 「その池はこの地点が一番深い」

(6) ドイツ語：*am* ADJ-*sten*(主語との一致はなし。無変化)という形式の義務性

a. Der See ist {**der tiefste** in dem Land / in dem Land **am tiefsten**}.
the lake.SG.M is the deepest.SG.M in.the.country / in.the.country at.the deepest.INV
「その池はこの国で一番深い」

b. Der See ist {*der tiefste in der Ort / in der Ort **am tiefsten**}.
the lake.SG.M is the deepest.SG.M at.the.point at.the.point at.the deepest.INV
「その池はこの地点が一番深い」

(7) フランス語：定冠詞 *le* の性の一致の有無（形容詞自体は一致していることに注意）

a. Elle est **la** plus haute de sa classe.
she is the.F more high.F of her class
「彼女のクラスの中で最も背が高い」

b. C'est en vacances qu' elle est **le** plus heureuse.
It's in vacances that she is the.INV more happy.F
「彼女は一番幸せなのはバカンスに行っている時だ」

(8) スウェーデン語：定冠詞及び定性を示す語尾-*e* の有無（さらに部分的読みでは副詞 *som* が出現可能となる。Viberg, Ballardini and Stjärnlöf 1990）

a. Den här vinter-n är jag **den kallast-e** på länge.
the this winter-DEF am I the coldest-DEF for.a.long.time
「今年の冬はここ数年で一番寒い」
b. Nu är vinter-n (som) { **kallast** / *kallast-e }.
now is winter-DEF so coldest coldest-DEF
「冬は今が一番寒い」

(9) フィンランド語：複数接格・向格及び所有接尾辞の使用(吉田 2010)
a. Hän on meistä **pisin.**
he is we.ELA highest.NOM
「彼は私たちの中で最も背が高い」
b. Suomen luonto on **kauneimmilla-an** kesällä.
Finland.SG.GEN nature.SG.NOM is most.beautiful.PL.ADE-POSS.3SG summer.SG.ADE
「フィンランドの自然は夏が最も美しい」

なお、英語には *at its(her/his)* ADJ-*est* という形式もあり、語類の構成等においてドイツ語と類似している。

(10) Where's the population growth highest? It's at its highest in rural areas, (…)
[British National Corpus: HYP S_tutorial]

(11) It was mid-morning, the sun not quite at its highest, (…) [British National Corpus: ADS W_fict_prose]

また、フィンランド語の接格は、静的な位置を表す場所格として機能する（おおむね英語の *at, on* に対応。その他、所有構文における所有者を表す）ことから、所有接尾辞の存在を加味すると、フィンランド語においても *at its(her/his)* ADJ-*est* と類似した形式が存在しているといえる。

部分的読みを持つ最上級形容詞の統語的・形態的特徴を要約すると、次のようになる。

- 定性マーカーの出現が任意(英語)か、もしくは禁止(ドイツ語、スウェーデン語)される
- 最上級形容詞及び定性マーカーが主語と一致しない(ドイツ語、フランス語(冠詞のみ)、スウェーデン語、フィンランド語)
- 最上級形容詞が前置詞句ないし斜格で出現する(任意：英語／義務的：ドイツ語、スウェーデン語)

３．既存概念へのあてはめ

部分的読みを巡って一部の先行研究は、これを例外現象として捉えつつ、既存の言語現象への帰着を試みているものがある。これを踏まえ本節では、部分的読みが諸々の言語現象とどのように関連しているのか否かを検討する。

３．１．限定用法 vs. 叙述用法

形容詞の機能としては、(a)名詞句内において名詞を修飾し、名詞の指す事物の属性を記述する限定用法と、(b)コピュラ文等の述部や一般動詞の補部を占め、（主に）主語の様態を叙述する叙述用法の大きく２種類が認められる。論者にもよるが、最上級形容詞はたとえコピュラ文述語に位置しようとも、限定用法である、つまり、形容詞の直後にゼロ形式の代名詞が存在すると分析することができる(反対の主張に、Loccioni 2017 等)。例えば Matushansky(2008)は、最上級形容詞の直後に *one* を補う操作が容認できること等をその根拠としている。しかしこの操作は、部分的読みを持つ最上級形容詞では不可能である。

(12) a. It's cold in New York, it's cold in Chicago, but it's (the) coldest (*one) in Boston.

b. I'm (the) happiest (*one) when I'm doing syntax. (Matushansky 2008: 72)

また、フランス語で定冠詞 *le* の性の一致が見られないことや、スウェーデン語で定性を表す語尾が出現しないことを考慮すると、部分的読みの最上級形容詞を一律に限定用法とすることは困難である（両言語とも、性の一致及び語尾の出現は限定用法において義務的である）。

では叙述用法といえるか。コピュラ文述部以外の環境で出現できるかという点で見ると、*highest* が *see* の補部として出現する(13)を除き確認されず、仮に叙述用法が可能だとしても、かなり周辺的な用例といえる。

(13) Easterners will see the Moon highest and the eclipse happening latest in the evening.

[Corpus of Contemporary American English: MAG SkyTelescope]

さらに、名詞に後置する形容詞は、統語的に簡約化された関係節の補部に由来するとされている(Cinque 2010 等)が、少なくとも英語においては、最上級形容詞が名詞に後置されることはない（*best known* といった分詞由来の最上級形容詞は除く。４．３節参照）。部分的読みの最上級形容詞が前置詞句ないし斜格で出現する言語が多いことも加味すれば、叙述用法と断言することは適切でないと思われるが、本発表では断言を避け、少なくとも部分的読みにおいては限定用法でないことのみ主張する。

３．２．Partitive construction

Partitive construction とは、DP_1 of DP_2 という形式を持つ構文で、DP_1 と DP_2 の間の全体部分関係を表すものである(de Hoop 2003 等)。Matushansky(2008)は、部分的読みを持つ最上級形容詞を"stage" superlative ないし abstract superlative と呼び、その上で、これが partitive construction を成す可能性を示唆している。しかし同時に、この仮説では of DP_2 となる要素としての *of them* を補う操作の不可能性を説明できないとしている(Matushansky 2008: 72)。

(14) a. *Callas sang at her best of them.

b. *I'm happiest of them when I'm doing syntax.

意味的な観点からも批判が可能である。Barker(1998)は、partitive construction において指示される個体（の集合）は anti-unique であり、当該構文の外延は２つ以上の個体でなければならず、定冠詞と共起するには関係節等により追加の情報を与える必要があると述べている。

(15) a. I met [one of John's friends].

b. *I met the [one of John's friends].

c. I met the [one of John's friends] that you pointed out this morning.

しかし、最上級はその意味からして unique であり、部分的読みにおいても、例えば(5b)では、池のあらゆる部分に対して池の最も深い部分は一般的に一意に定まる。

ただし、部分的読み以外の読みの場合、最上級形容詞は partitive construction の DP_1 として問題なく出現する(Hoeksema 1996)。これにつき、*-est* ないし[**C** -est]が(15c)の関係節と同様の機能(指示対象を一意に定め、定冠詞との共起を認可する機能)を有していると考えられるが、本発表では詳細な議論は避け、今後の課題とする。

(16) Wilpattu is the largest of Sri Lanka's National parks, (…) [British National Corpus: CK2 W_non_ac_nat_science]

３．３．absolute reading vs. comparative reading、もしくは definite vs. indefinite

第１節で、(3b)の comparative reading における名詞句が不定であるとしたが、これは、comparative reading が

不定名詞句のみを許す環境において生じているという観察(Szabolksi 1986: 11)や、一般に定の DP が QR 等の抽出操作(extraction)に関して島となっているという想定(Heim 1999: 22)に基づく。

(17) a. *John has the sister. (cf. John has a sister.)

b. *John has the smartest sister.

c. JOHN has the smartest sister. (among any other salient individuals) ※大文字は強勢ないし焦点を表す

Heim(1999)は、*angry (at)*という語彙項目と、これを用いた文につき次のとおり分析を行っており、部分的読みに相当する読みについては、comparative reading に準じた操作を行っていることが分かる。

(18) [[angry]](x)(d)(y) = 1 iff y is angry to degree d at x.

(19) John is angriest at Mary.

LF: [John [is [**C** -est [angry at Mary]]]]

⇒ <u>Mary</u> λx[John is [**C** -est [angry at x]]] (Mary に QR を適用)

⇒ Mary <u>[**C** -est]</u> λd λx[John is d-angry at x] ([**C** -est]を上昇)

この操作を(5b)に類推して適用すると、次のようになる。

(5b')the point [**C** -est] λd λx[the lake is d-deep at x] もしくは at the point [**C** -est] λd λp[the lake is d-deep p]

この分析は部分的読みを問題なく与えるものであるが、現状では comparative reading と部分的読みの統語的・形態的差異(*the* の任意性)を生じさせる理由が説明できない。Coppock & Beaver(2014)は、従来不定と分析されてきた relative(=comparative) reading における *the* は、定(presupposes uniqueness)ではあるが indeterminate(doesn't presuppose existence)であると主張しており、前節の partitive construction における anti-uniqueness と関連を有する可能性があるが、これについても紙面の都合上今後の課題としたい。

３．４．他の事物との比較 vs. 同じ事物との比較

通常の比較構文では、ある事物の属性が、他の事物と比較して卓越していることが意味される。これに対し、同じ事物同士で比較する比較構文は、情報として無価値であり、意味的に容認されない(Quirk et al. 1985: 1132、友澤 2018: 236)。だが、同じ事物同士でも、異なる時間や様相において比較される場合、比較構文が使用できる(Quirk et al. 1985: 1133、友澤 2018: 237)。友澤(2018)は、このような比較の基盤になる概念を、時間と様相を合わせて「時相」と呼んでいる。

(20) Michael is as slim as { *he is / he used to be }.

(21) I hear it more clearly than { *I hear it. / I did }.

同様に、最上級構文では主語とそれ以外の事物が比較されるのが普通であるが、異なる時間において比較することにより、同じ事物同士での比較が可能となる（ただし、異なる時間を表すのに、時制を用いず前置詞句等を用いることがほとんどである）。

(22) The village is most beautiful in spring.

(22)のような例を参照する限り、最上級形容詞が主語の一時的な状態を表しているという意味では、当該形容詞（述語）をいわゆる stage-level predicate のひとつと解釈することができる。しかし、(23)–(25)の例を見れば、部分的読みが時間的部分(stage)のみを取り出しているとは言えず、時間的な部分に限らない、空間的、特質的部分も考慮すべきことがわかる。

(23) The lake is (the) deepest at this point. (=(4))

(24) Warner was best known for his work on optics and mathematics.

(25) The worth of a thing is best known by the want of it.

そこで、部分的読みを「述語（形容詞）の表す属性が主語の指示対象の時間的・空間的・特徴的な一部のみに妥当する読み」と定義した上で、次節では当該読みの類型、性質について整理する。

４．部分的読みの類型

４．１．時間的部分

(26) The village is most beautiful in spring.

その村は、時期に応じて様々な美しさの程度を持つが、中でも春にその美しさが最大となる。ここで比較されているのは、様々な時期の「その村」であり、他所の村は問題とならない。

４．２．空間的部分

(27) The lake is deepest at this point.

その池は、水面から底までの深さが一様でなく、「この地点」において、最大の深さを持つ。()と同様、比較対象はその池の様々な地点であり、他の池は関係がない。

４．３．特質的部分

(28) Rembrandt is best known for his portraits in oils, painted in somber color.

例(28)では、レンブラントが他の画家と著名度において比較されているのではなく、レンブラントはもとより様々な絵画で有名でありながらも、「油彩の肖像画」において彼の著名度が最も卓越していることを表している。なお、この特質的部分を持つ最上級形容詞は、名詞に後置することのできる例外となっている。

(29) United States writer best known for his novels.

５．部分的読みの性質、留意点

ひとつに、部分的読みとそれ以外の読みとの間に包含関係はない。*The lake is deepest at this point.* の意味は *The lake is the deepest.*のあらゆる読みと真理条件的に独立である。

また、通常の比較構文では主語とそれ以外の個体（＝**C**）に関する知識が必要とされるが、部分的読みでは個体の知識のみで真理条件を決定できる。具体的には、主語名詞句の空間的な形状、時間的推移ないし特質に応じた属性の程度の知識があればよい。逆に言えば、主語以外の個体の属性がどうであっても、部分的読みの真理条件は変わらない。

なお、原級・比較級・最上級を問わず、形容詞は部分的読みを持ちうることを指摘しておく。

(30) The lake is deep here. / The lake is deeper here than there. / The lake is deepest here.

原級形容詞は厳密には比較表現の一例ではないが、尺度を持つ形容詞は原級でも、暗に比較対象ないし規範(norm)を含意し、意味的には比較概念を包含しているといえる(*This elephant is big.*や *This cat is big.*等。Quirk et al. 1985: 711)し、部分的読みも暗に様々な部分同士での比較が行われていると考えられる。ただし、*one meter* 等の程度を表す DegP と共起する場合のように、比較を伴わない純粋な属性の叙述を行うものもある。

(31) […] the pool was only one meter deep here! [iWeb: The Intelligent Web-based Corpus: topfamousquotes.com]

特質的部分について一点補足する。Sassoon(2013)等において、multidimensional adjective の一例として *healthy* が挙げられている。血圧、心拍数、コレステロール値といった様々な観点から、ある点においては健康で、逆にある点においては健康でないといったことが同時に生じえるためである。

(32) Dan is healthy except blood pressure.

long も、空間的な長さ及び時間的長さの少なくとも２つの次元を有してはいるが、これらの次元を両立させることはできず、その意味で真正な multidimensionality を有さないとされている。

(33) a. #The table is long with respect to temporal duration (but not space)

b. #The table is long in {all, most, three, some} respects.

この multidimensional adjective に近しい最上級形容詞として、*best known* 等がある。

(34) Warner was best known for his work on optics and mathematics. (=(24))

光学、数学、医学に関する著作といった様々な観点で有名でありうるという点では、*healthy* と同等の分析が可能である。ただ、*long* のように、同じ空間的な長さでも、例えばテーブルでは横幅と奥行の少なくとも二つの側面（≠ここで言う次元）に分解可能であり、さらに独特な形状のテーブルであれば、様々な位置において長さを叙述することができ、たとえ(33)のような例は不可能だとしても、部分的読み等は問題なく出現しうる。このように部分的読みはもっぱら主語の知識とひとつの尺度に依拠するが、対して multidimensionality は述語（形容詞）が有する相互に両立可能な諸次元に依存する。*healthy* はいわば様々な検診事項のカタログによりその意味が特徴づけられており、*best known* も有名になりうる事柄の集積でその意味が理解されうる。その意味では *best known* ないし特質的部分を与える形容詞は、multidimensional adjective を拡張したものか、multidimensional adjective と部分的読みを持つ形容詞がオーバーラップする領域に位置していると考えられる。*best known* が名詞に後置可能なのも、この両面性が原因である可能性がある。

略号

M, F, N　（文法上の）男性、女性、中性

ADE　接格

ADJ　形容詞

ELA　出格

INV　性数無変化

NOM　主格

PL　複数

POSS　所有接尾辞

SG　単数

SUP　最上級形態ないし最上級形態素

参考文献

Barker, C. 1998. Partitives, double genitives and anti-uniqueness. *Natural Language & Linguistic Theory*, 16(4), 679–717.

Cinque, G. 2010. *The syntax of adjectives: A comparative study*. Cambridge, MA: MIT press.

Coppock, E., & Beaver, D. 2014. A superlative argument for a minimal theory of definiteness. *Proceedings of SALT*, 24, 177–196.

Heim, I. 1999. Notes on superlatives. manuscript, MIT.

Hoop, H. de. 2003. Partitivity. In Cheng, L., Sybesma, R. (ed.), *The Second Glot International State-of-the-Article Book*, 179–212.

Matushansky, O. 2008. On the attributive nature of superlatives. *Syntax*, 11(1), 26–90.

Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. N., Svartvik, J. 1985. *A comprehensive grammar of the English language*. London: Longman

Sassoon, G. W. 2013. A typology of multidimensional adjectives. *Journal of semantics*, 30(3), 335–380.

Scheible, S. 2008. Annotating superlatives. *Proceedings of the Sixth International Language Resources and Evaluation (LREC'08)*, 923–928.

Szabolcsi, A., 1986. Comparative superlatives. *MIT Working Papers in Linguistics,* 8, 245–265.

Viberg, A., Ballardini, K., Stjärnlöf, S. 1990. *Essentials of Swedish Grammar*. New York: McGraw-Hill Education.

友澤宏隆. 2018.「英語の程度比較・程度修飾表現の認知文法」. 西村義樹(編)『認知文法論I シリーズ認知言語学入門 第4巻』. 東京: 大修館書店. 225–269.

吉田欣吾. 2010. 『フィンランド語文法ハンドブック』. 東京: 白水社.